

<p>第 2 回 (2007.4.20)</p>	<p>「学問・研究・文献・情報 『八月一五日の神話』の制作プロセス」 佐藤卓己准教授 (教育学研究科)</p>
<p>講義スタイル：パワーポイントによる講義 参加者数：103 名 配布資料：A3 プリント 2 枚 (『九月ジャーナリズム』を提唱する) 月刊民放 2006 年 8 月号 12-17 頁) B4 プリント 1 枚 (8・15 関連新聞記事)</p> <p>講義目的：情報を探すということ、実際の研究にどう生かしていくかを考える。 著書『八月一五日の神話：終戦記念日のメディア学』(ちくま新書)を書くにいたる過程での、情報の調べ方、使い方を提示する。研究の発端は何か。研究はどんな情報から生まれるのか。</p> <p>内容：「終戦記念日」をめぐる 終戦記念日は「いつ」か？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 候補は 8 通り (どれを応えても正しくなる) 8 月 10 日：日本降伏の新聞号外 (スイス・パーゼル)、8 月 14 日：ポツダム宣言受諾、 8 月 15 日：玉音放送、8 月 16 日：大本営停戦命令発令、 9 月 2 日：降伏文書調印 = アメリカ VJ Day、9 月 3 日：(中露) 抗日戦勝記念日、 9 月 7 日：沖縄降伏調印式 = 「市民平和の日」、10 月 25 日：台湾「光復式」 ・ 教科書の記述にもばらつきがある。(世界史：8 月 14 日、15 日、日本史：9 月 2 日) ・ 戦争に負けた国は終戦記念日、侵略された日を記憶。勝った国は同日になるはずの開戦記念日を忘却。 ・ 相手があつての戦争、外交的なリアクションのない 15 日を終戦日と認識することへの疑問。 ◆ 「われわれの常識 世界の常識」 新聞、ラジオ、雑誌...情報氾濫の現代社会でこうしたことを考えてみよう。 <p>「われわれの常識：8・15」は「いつ」できあがったのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8・15 = 終戦記念日の法的根拠：1963 年 5 月 14 日「全国戦没者追悼式」での実施要綱 ・ 戦没者を追悼し、平和を祈念する日：1982 年鈴木内閣で正式に名称決定 45 年に終わった戦争。終戦記念日は最近に法的決定。 <p>こうしたことから『八月一五日の神話...』を作成 出版当時、新聞社説、コラム等、メディアとして 8・15 の問題を受け止めている。</p> <p>『八月一五日の神話...』の内容を追いながら</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 8 月 15 日の根拠 玉音放送 ：玉音放送の文言数 (815、実際は 814) の神話 ：日本国民にむけて (終戦記念日とするにはふさわしくない) 歴史学、文書学 終戦として不正確 2. 新聞はそれをどう報道してきたのか。 ：玉音放送のイメージ “泣き崩れる女子の写真” “頭を下げる小国民” これは本物か？ 結論：15 日より以前にとられたもの。もしくはやらせ、合成。 ◆ 写真から、8・15 がどのようにわれわれのイメージの中で造られて言ったかということ問い直す = 戦争がおわるとはどういうことなのかを考える。 <p>佐藤先生の関心と調査追求</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 北海道新聞 (写真「ラジオの前で泣き崩れる少年」)：合成写真であることの公表とメディアの黙認 ・ 朝日新聞 (写真「九州飛行機工場の女子」「皇居のまわりで額づく国民」)：15 日以前に準備される写真 ◆ 出発点「この写真はおかしいな」から、なぜ 8 月 15 日なのかへ。 ：もうひとつの出発点「日本の降伏についての号外 (8 月 10 日 パーゼル)」ドイツの古書店 <ol style="list-style-type: none"> 3. なぜ 8 月 14 日や 9 月 2 日は忘れ去られたのか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 8 月 14 日：1945 年 9 月 6 日の玉音放送についてのニュース映画「8 月 14 日大東亜戦争終結」 ：1995 年アメリカ切手シリーズ「Aug 14, 1920」 ・ 9 月 2 日：2005 年 マーシャルアイランド記念切手「9 月 2 日文書調印シリーズ (戦艦ミズーリ)」 	

- ・ 当時からの反論（15日を終戦日としたことへの反論）
 - ：坂口安吾『続墮落論』文学季刊 1946 年 12 月第 2 号
 - 「天皇制文化の内面における歴史的カラクリ」「天皇を信じる日本国民にのみ通じるひとつのドラマ」
 - 「外国の人にわかってもらうのは土台無理」
- ◆ 日本にとって天皇とはなにか、玉音放送とはなにかを説明した上で、なお合理的に 8 月 15 日が終戦日だといえるのかどうか。
 - 歴史事実として 8 月 15 日に終わった戦争はあったのか。
 - 国際的には 8 月 14 日のポツダム宣言受諾もしくは 9 月 2 日の降伏調印が妥当。
- ・ 14 日や 2 日を忘れるための「15 日」
 - 「断絶」（8・15 革命）と「連続」（お盆）
 - ：ラジオ放送にみるお盆と「8・15」
 - ：戦没者供養と終戦記念日 占領期がおわってから 8・15 は定着
 - ：お盆 1955 年をさかいに、現在の 8 月ジャーナリズムと聖霊月として日本の民俗の中に確立
 - （その他：配布資料参照 A3 プリント 祝祭日の世論調査 国会議事録等の資料検索）

メディア研究の政治的議論への貢献 - 「内容よりも形式」

- ・ 政治的問題としての終戦記念日
 - 戦没者を祈る日は 4 月 30 日だった（戦前の靖国礼拝日）ことの忘却
- ・ アジアとの友好関係を考える終戦記念日の提案 「終戦記念日」の分割
 - 平和を祈念する日（終戦記念日）：9 月 2 日
 - 戦没者追悼日：8 月 15 日
- ・ メディア論：「内容よりもむしろ形式」を追う姿勢を。
 - 「8 月 15 日になにをするべきか」よりも、「8 月 15 日という日付（カレンダー）の枠組みをどうするか」を考えよう。「8 月 15 日は熱かった」との記憶によりすぎることから脱せよ。